

平成29年度 事業報告

財団法人シルクセンター国際貿易観光会館は、横浜開港100年記念事業として、神奈川県、横浜市及び関係団体の協力のもとに、生糸及び絹業を中心とする日本の産業貿易並びに観光事業の振興発展を図ることを目的に設立され、その目的達成のため昭和34年3月12日にシルクセンタービルをオープンし、長年、会館を運営してまいりました。

平成26年4月の一般財団法人への移行後も公益目的支出計画に基づく「実施事業」と「その他事業」の区分により、絹に関する知識の普及・伝承、絹製品の需要の促進、国際貿易及び観光の振興等の事業を積極的に展開しております。

平成29年度における各事業の実施状況は、次のとおりです。

I 実施事業

公益目的実施計画の実施のため、公益事業として次の事業を行いました。

1 博物館事業（継続事業）

魅力ある博物館づくりをめざし、常設展示、特別展・企画展等の充実や、主に県内小学校を対象とした蚕やシルクの理解促進のための教育普及事業等に取り組み、絹知識の普及と需要の促進に寄与するよう努めました。

(1) 展示事業

ア 常設展示

絹知識の普及と需要の促進を図ることを目的に、学校教育活動の場や生涯学習の場として活用できるわかりやすい展示、また絹による服飾工芸品の鑑賞の場として、魅力ある展示となるよう充実に努めました。

イ 春の企画展

「ふくらむ はずむ まじわる シルクの輝きを知る

～織りの美～」

[会 期] 平成29年4月29日(土)～6月4日(日)

つづれ織、にしき織、つむぎ織、かすり織、佐賀錦などの重要無形文化財保持者の作品や、結城紬、大島紬、村山大島の織機と作品を展示し、様々な織りの手仕事に焦点をあてて、日本のキモノ文化の素晴らしさを紹介しました。

ウ 秋の特別展

「横浜・生糸ものがたり I “かいこ” と暮らすーかながわ養蚕録ー」

[会 期] 平成29年10月7日(土)～11月12日(日)

養蚕業で実際に使われていた道具や、養蚕書、文書、写真、映像などを展示し、神奈川県内の養蚕業を、“かいこ”と人々との暮らしの関わりから紹介しました。

(2) 教育普及事業

ア かいこ博士プロジェクト

(ア) 蚕種配布事業

[期 間] 平成29年5月18日(木)～20日(土)

神奈川県内の小学校、幼稚園等へ約500セットの蚕の卵(蚕種)を有料配布しました。また、飼育方法や観察の仕方等についてのマニュアルを配布し、講習会を開催するなど理科教育等への支援を図りました。

(イ) かいこ教室

[期 間] I 期 平成29年7月29日(土)～8月13日(日)

II 期 平成29年8月19日(土)・20日(日)

神奈川県内及び近隣地域の小学生等を対象に、I 期では蚕の観察や、まゆ人形作り、ランプシェード作り、スカーフの巻き方教室等を、II 期では、見学ツアーやまわたスタンド作りの特別講座を開催し、理科教育等への支援に努めました。

(ウ) 子供向けワークショップ・学校利用

[期 間] 子供向けワークショップ；平成29年4月8日から平成30年3月10日まで、8月を除く毎月第2土曜日
学校利用；随時

小学生等の蚕についての理解促進を図るため、子ども向けの「まゆ人形作りワークショップ」を開催するとともに、小学校の団体見学の受け入れを積極的に行いました。

(エ) たのしいかいこの発表会

[期 間] 平成29年12月2日(土)～平成30年1月8日(月・祝)

「かいこ博士プロジェクト」の締めくくりとして、子どもたちが作成した蚕の観察記録やまゆ人形等を募集し、展示、表彰しました。

イ 実演・講習会の開催

手作り真綿、真綿からの太糸作り、手紬糸作りの実演や、くみひもストラップ作り、スカーフ染め体験、手描き友禅色挿し体験などの講習会を開催し、繭、生糸、真綿、絹への理解促進に努めました。

ウ 連続講座 60周年プレイベント「街の記憶～山下町1番地を中心に～」

[期 間] 平成30年1月13日(土)、2月10日(土)、3月10日(土)

シルクセンタービルのある山下町1番地の有する歴史と伝統に焦点をあてて、街の記憶を振り返りながら、横浜の歴史を紹介しました。

エ 博物館実習生の受入れ

博物館学芸員の資格取得を支援するため、博物館学を履修している大学生の博物館実習を受け入れました。

(3) 記念事業

平成29年6月25日(日)に、開館以来200万人目となる入館者に認定証や生涯使える特別無料入館券等の記念品を贈呈しました。

(4) 連携事業

ア シルキーウィンターフェスティバル

[期 間] 平成29年12月2日(土)～平成30年1月8日(月・祝)

関東学院大学、シルクミュージアムショップアソシエーション等と連携し、クリスマスイベントとしての「シルキークリスマス」(12月17日(日))等を開催し、子どもたちを中心に幅広い世代の方々のシルクへの理解促進を図るとともに、シルクに関わる産業の振興にもつなげていけるよう努めました。

イ 横浜絹フェスティバル

[期 間] 平成29年10月4日(水)～17日(火)、11月15日(水)

繊維関係団体・企業、百貨店、ホテル等と連携して、絹とともに発展した横浜で、絹の魅力を発信し、絹の需要促進を図りました。

(5) 広報事業

新聞、テレビ、ラジオ等の報道機関、小・中学校、服飾関係学校、ホテル、旅行会社等への広報、ポスター掲示などのPR活動を行うとともに、インターネットでの情報発信にも積極的に取り組みました。

(6) 開館60周年に向けた取組み

開館60周年となる平成31(2019)年度を目途に、より魅力的な博物館となれるよう、収蔵環境の基礎データの収集や類似規模館の調査などに取り組みました。

2 シルク等普及推進事業(継続事業)

神奈川県在地場産業であるシルク産業の振興を支援するための宣伝、普及、販売促進に取り組むとともに、地域社会活性化に寄与するため、地域住民の

公益的活動等の支援に努めました。

(1) シルク等普及活動事業

ア シルキーウィンターフェスティバルの開催（再掲）

特に若い世代を含めた多くの方々にシルクセンターに来館いただき、シルクの魅力等について広く理解していただくため、平成29年12月2日から平成30年1月8日まで開催しました。

イ かながわシルクフェア

シルク貿易の街・横浜の繁栄を支えてきた生糸、シルクの魅力を周知し、神奈川県伝統産業であるシルク製品の普及・啓発及び販路拡大等を図るため、シルク製品に関わりのある団体及び神奈川県と共同で「かながわシルクフェア」を平成30年3月13日から22日まで開催しました。

(2) 施設を活用しての普及活動支援事業

ア シルクミュージアムショップの運営支援

横浜のシルク産業を支援する取組みとして、販売・宣伝を行うためミュージアムショップスペースを横浜繊維振興会（Y T A）に引続き貸与しました。

イ 催事場による支援

県民・市民の文化芸術活動の振興、地域社会への横浜のシルク産業の振興等を図る活動を支援するため「催事場」の貸与を行いました。

II その他事業

公益目的支出計画の安定的な実施のため、収益事業として次の事業を行いました。

1 部室賃貸事業

大規模テナントの退去により入居率が低下したため、不動産会社に仲介及び広告業務を委託し空きスペースの解消を図るとともに、良質な部室の提供や執務環境の整備に努め、入居率の一層の向上をめざしました。

2 附帯事業

入館者の利便に供するため、月極め立体機械式車庫並びに平面駐車場の適切な管理運営に努めるとともに、正面玄関前時間貸平面駐車場はタイムズ24株式会社に運営委託しました。